

株主の皆様へ



芦田 昭充
会長

武藤 光一
社長

2012年度、 2期連続の赤字を計上

私ども商船三井グループは、2013年3月末で前中期経営計画「GEAR UP！MOL」を終了しました。3年計画の初年度は好スタートを切ったものの、その後の2年間、当社は極めて厳しい外部環境に晒されました。欧州金融危機、中国をはじめとする新興国の成長鈍化、東日本大震災等の自然災害、円高や燃料油価格の高騰など、いくつものマイナス要因が一度に発生、一方で新造船の大量竣工が続いたため、船腹は供給過多の状況に陥りました。私たちはこの数十年に一度とも言うべき難局に対峙し、その克服に努めましたが、2011年度にはコンテナ船、ドライバルク船、油送船の3部門において船腹需給悪化に伴う市況下落を押し留めることができず、全社で243億円の経常損失を計上しました。2012年度においては、コンテナ船はコスト削減や運航効率改善が奏功し大幅に赤字幅を圧縮したものの、その改善努力を相殺する形でドライバルク船市況が未曾有の低迷に陥り、全社では285億円の経常損失と、2期連続の赤字計上を余儀なくされました。

2012年度第4四半期に 「事業改革」を断行

こうした中、船腹需給の将来見通しは、その適正化になお時間を要し、2013年度中の本格的な市況回復は期待できないことを告げていました。このため当社は、外部環境の好転を待たずに業績改善を可能とする抜本的な改革が必要と判断、2012年度第4四半期を期して「事業改革」を断行しました。中長期契約による安定利益を大きく棄損していたフリー船の損益改善が必須であると考え、ドライバルク船の営業・運航をシンガポールへ移転、さらにはドライバルク船・油送船のフリー船規模を縮小して市況リスクへの耐性を強化することとしました。この結果、誠に遺憾ながら巨額の事業改革費用を計上することになりましたが、2013年度から確実に成長路線に復帰するための競争力を獲得することができました。

2013年度に単年度 経営計画「RISE 2013」 を発動

2013年4月から、当社グループは、一年間で業績を黒字化することを必達目標とする単年度経営計画「RISE 2013」に、全社を挙げて取り組んでいます。本来であれば次期中期経営計画を公表すべき年ですが、まずは全員が危機意識を持って黒字化を達成し、キャッシュ・フローを積み上げることによって持続的成長に向けた磐石の基礎を構築するため、敢えて単年度経営計画としました。

「RISE 2013」は、事業モデルの変革を大きな柱としています。企業理念の原点に戻って顧客ニーズに応えるための営業を強化、貨物契約を拡大して安定収益を上積みする一方で、市況エクスポージャーを適正規模に縮減します。また、どのような市況環境においても常にマーケット+αの付加価値を生み出せるよう、集荷や運航に創意工夫をこらし、コスト削減についても一層踏み込んだ対策を実行していきます。こうした取り組みの一環として、国際海運の中心となりつつあるシンガポール等の海外拠点において、事業展開を強化します。

持続的な成長に向けて

「RISE 2013」を経て、当社は、世界経済の成長とともに持続的に創出される海上荷動きを着実に取り込む力と、そのための確固たる基盤を再構築します。その上で成長軌道に回帰し、企業価値の一層の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2013年8月

芦田 昭 充

芦田 昭充
会長

武藤 光 一

武藤 光一
社長